

小規模多機能施設や保育園など

古河病院 院外に新築移転

回復期リハビリテーション病棟(30床)を開業

古河病院(茨城県)は、院内に併設していた介護事業所などを病院敷地内に新築移転した。各事業所の利用者さんの環境改善と病棟のフル開業が目的だ。移設した各事業所では、以前より利用者さんの外出や世代間交流の機会が増加した。同院は7月に空いたスペースに回復期リハビリテーション病棟(30床)を開業した。234床フルオープンを実現した。



「笑顔で帰ってもらえる施設を目指します」とポプリの職員(右から3人目が松浦所長)

院外に新築移転した事業所は小規模多機能型居宅介護事業所「ポプリ」、訪問介護事業所「四季」、院内保育園「なかよし園」。古河病院は自院に隣接する土地を取得し、敷地内

に2棟の平屋建てを建設。それぞれポプリとなかよし園を開業した。四季はポプリの事業所内の一角に併設した。ポプリは「通い」「泊まり」「訪問」のサービスを提供し、それらを組み合わせ、利用者さんの生活をサポート。現在、12人のスタッフが在籍し、25人の登録利用者さんを支えている。四季はポプリの訪問サービスとは異なる訪問介護事業所



新築移転したポプリ(手前)となかよし園。ポプリにはスプリンクラー、なかよし園には隔離スペースを設置し安全面も充実

として介護保険、自費、通院介助のみの3種類の訪問介護サービスを提供。各事業所は従来、同院の3階に併設。安定してサービスを提供してきたが、要介護者や小児を対象とするうえで、安全面への懸念が常にスタッフのなかにあった。ポプリの松浦千鶴子所長は「1階まで移動するのは利用者さんだけでなく、安全に注意を払う職員にとっても負担が少なくありません。とくに避難するよう

な事態が起こった時のことを考えると、不安を感じた」と説明する。同院も許可病床のフル開業を検討していたことから、併設事業所の移設を実施。同院は患者さんの円滑な在宅復帰のために、7月に回復期リハビリテーション病棟を開業した。移転後、各事業所の安全性は着実に向上。スプリンクラーも完備した。屋外への避難がスムーズにできるようになったほか、レイアウトを工夫、利用者さんの様子が把握しやすくなった。「利用者さんの半数が認知症の方。以前は隣の病棟に入っても、すぐにはわからないことがありました」と松浦所長は強調する。



園児の様子がわかるポプリのバルコニーは、利用者さんからも人気

利用者が過ごす環境も改善した。屋外に出やすくなったぶん、利用者さんがちょっとした散歩をするなど外出する機会が増えたり、保育園が隣接しているため園児との会話を楽しむ場面が見られたりしているという。なかよし園の渡辺明子副主任も「世代間交流は高齢者だけでなく、園児にも刺激となります。以前は全員が準備して外に移動しなければなりませんでした。今はずいぶん交流が図れます。誰からも喜ばれる保育室にしたいと思います」と目を細める。今後、各事業所は同院との連携を図り、サービスの質の向上に努める。四季の塚原久美子サービス提供責任者は、病院の

棟に入っても、すぐにはわからないことがありました」と松浦所長は強調する。利用者が過ごす環境も改善した。屋外に出やすくなったぶん、利用者さんがちょっとした散歩をするなど外出する機会が増えたり、保育園が隣接しているため園児との会話を楽しむ場面が見られたりしているという。なかよし園の渡辺明子副主任も「世代間交流は高齢者だけでなく、園児にも刺激となります。以前は全員が準備して外に移動しなければなりませんでした。今はずいぶん交流が図れます。誰からも喜ばれる保育室にしたいと思います」と目を細める。今後、各事業所は同院との連携を図り、サービスの質の向上に努める。四季の塚原久美子サービス提供責任者は、病院の



新築の保育園には、子ども用トイレを新たに設けた

患者さんの在宅生活の支援、松浦所長は訪問サービスの強化と看取りを含めた重度者への対応を視野に入れている。

婦人科



「女性がアクティブに社会活動を続けられるよう貢献していきたい」と由井部長

「幅広い年代の女性の健康管理をサポートしていきたいです」。こう話すのは、武蔵野徳洲会病院(東京都)婦人科の由井瞳子部長だ。同院婦人科では、子宮筋腫や卵巣嚢腫といった良性腫瘍から、生理痛や月経量が多いなどの月経異常、子宮内膜症、骨粗鬆症、更年期障害などに加え、ケースによっては他施設と連携しながら子宮頸がんや子宮体がん、卵巣がんの治療も行っている。

由井部長は日本産科婦人科学会産婦人科専門医、日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医、日本内視鏡外科学会技術認定医、日本抗加齢医学会専門医の資格をもつ。

婦人科腹腔鏡手術のエキスパートである倉敷成人病センターの安藤正明副院長の下で、腹腔鏡の技術などを磨いた。

婦人科のもうひとりの常勤医、橋理香医師も日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医の資格を有する。

良性腫瘍に関しては、ホルモン剤など薬物療法を第一選択とする。薬物療法が適応外の場合に手術を行うが、その場合も患者さんの身体への負担を軽減するため、腹腔鏡手術や子宮鏡手術を行うなど、できるだけ低侵襲な治療を心がけている。

手術で使う鉗子(刃のないはさみのような形をしたもので臓器を掴んだり縫合したりする手術器具)は、従来の5~12mmの太さのものだけではなく、2~3mmという極細タイプも使用。これにより術後の患者さんの痛みを大幅に低減させることが可能で、鎮痛剤が不要なほどだという。また、開腹手術に比べ術後の回復が早いので、早期の社会復帰も可能だ。外見上も創が目立ちにくく、女性に優しい治療法といえる。

「他の医療機関で『開腹手術でないか難しい』と言われた患者さんも、ぜひ一度ご相談ください」と由井部長。

由井部長によると晩婚化・晩産化を背景に、子宮内膜症や子宮筋腫、卵巣がん、子宮体がんなどに罹患する患者さんが増加しているという。

子宮内膜症や子宮筋腫はいずれも不妊の原因となり、また子宮内膜症に関しては、がん化する可能性もある。生理痛や月経量の異常などの初期症状が現れることから、異常に気付いた際には早めの受診が大切だ。

一方、ヒトパピローマウイルス(HPV)への感染が原因となる子宮頸がんについては、早期であれば円錐切除術という子宮頸部(子宮の入り口)を切除する術式によって、子宮を残し、妊娠・出産の機能を温存できる可能性が高まる。

キーワードは早期発見だ。由井部長は「自覚症状はほとんど出ないため、婦人科がん検診を定期的に行うことが望ましいです。とくにHPVは人から感染するため、初回性交渉から5年経過後を検診受診の目安にしてほしい。発症初期に検診で発見することが肝要です」と訴えている。

由井部長が得意とする腹腔鏡、子宮鏡による手術で対応が難しい治療に関しては、由井部長が築いてきたネットワークを生かし、症例豊富で適切な病院を紹介を行う。

また、由井部長は日本抗加齢医学会専門医の資格も生かし、婦人科でアンチエイジング治療を開始するなど診療メニューの充実にも尽力。「若い方から、ご年配の方まで女性がよりアクティブに社会での活動を続けていくことができるよう貢献したい」と由井部長は抱負を語っている。

腹腔鏡・子宮鏡手術に強み

地域医療の充実に力

武蔵野徳洲会病院が挑む

第3回

エリアに立ち寄り自由散策。昨年、見学した東京スカイツリーや羽田空港の離着陸機、また川崎方面を眺望でき、時を忘れて心が癒やされました。南房総市の「南房総道楽園」での休憩の際には、皆さん人気のびわんソフトを美味しく召し上がっていました。内房なぎさラインを経由して宿泊施設の「休暇村館山」に到着。車いすの皆さんが待望していた温泉大浴場に、千葉徳洲会病院リハビリテーション科部長の池田

「The Fish」というお店で海鮮料理の昼食とお買い物を楽しみ、予定時刻の午後6時に千葉病院に無事に到着しました。船橋リハビリ友の会会長、清水章

喜久子先生はじめ同院職員様のご協力により、全員入浴することができました。感謝、感謝です。入浴後は会場を貸し切りにしてお楽しみ夕食タイム。皆さんの楽しそうな顔を忘れることができません。翌日も快晴となり、昨年9月にリニューアルオープンした「アロハガーデンたてやま」へ。わが友の会のみで特別ショーを上演、50分間にわたってウクレレとフラダンスを披露していただきました。会員も壇上上がり、とても楽しく心に残る旅となりました。その後、富津市にある「The Fish」というお店で海鮮料理の昼食とお買物を楽しみ、予定時刻の午後6時に千葉病院に無事に到着しました。

月リニューアルオープンした「アロハガーデンたてやま」へ。わが友の会のみで特別ショーを上演、50分間にわたってウクレレとフラダンスを披露していただきました。会員も壇上上がり、とても楽しく心に残る旅となりました。その後、富津市にある「The Fish」というお店で海鮮料理の昼食とお買物を楽しみ、予定時刻の午後6時に千葉病院に無事に到着しました。

南部徳洲会病院

救急・離島医療からがん治療や在宅まで ウェブ動画で紹介

「どんな場所でも生命だけは平等だ」

徳洲会グループはインターネット上の動画サイト「YouTube」に、グループ病院の医療への取り組みを紹介する番組を毎月配信している。

今回は沖縄・那覇空港の近く、美らSUNビーチやサトウキビ畑が広がる南部徳洲会病院を取り上げている。同院は徳洲会の原点である断らない救急医療、離島医療を実践。

また最近では、がん治療、先進医療から回復期リハビリテーション、在宅医療まで、地域のさまざまな患者さんの広範なニーズに応えている。同院併設の介護施設との医介連携もすこぶる充実。

赤崎満院長は「超高齢化社会を見据え、各方面でネットワークをつくるのが非常に大事です」と展望している。

番組へのアクセスは、徳洲会グループのホームページ(<http://www.tokushukai.or.jp>)のトップ画面にあるバナー「どんな場所でも生命だけは平等だ」をクリック!

徳洲会グループのホームページにあるこのバナーをクリックすると、番組にアクセスできる

施設だより

南房総1泊研修旅行

船橋リハビリ友の会(千葉県)

船橋リハビリ友の会は6月1日から2日間の日程で、南房総1泊研修旅行を実施しました。当日は天候に恵まれ、車いすの方20人を含む総勢66人が観光バス2台で千葉徳洲会病院を出発。

海ほたるパークキング

エリアに立ち寄り自由散策。昨年、見学した東京スカイツリーや羽田空港の離着陸機、また川崎方面を眺望でき、時を忘れて心が癒やされました。南房総市の「南房総道楽園」での休憩の際には、皆さん人気のびわんソフトを美味しく召し上がっていました。内房なぎさラインを経由して宿泊施設の「休暇村館山」に到着。車いすの皆さんが待望していた温泉大浴場に、千葉徳洲会病院リハビリテーション科部長の池田